

伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第82号

発行日：令和元年 8月 1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市教育委員会事務局内

定例会発表

「荒木摂津守村重の居城

有岡城を考える」を聴講して

7月9日（火）の定例会で、伊丹市立博物館の中畔館長の特別発表を聴講しました。

冒頭で館長が、2020年のNHK大河ドラマは明智光秀を主人公とした「麒麟がくる」であると話されました。光秀といえば、彼の娘が荒木村重の嫡男・村次に嫁いでおり、村重とは姻戚という浅からぬ関係を結んでいます。数年前に黒田官兵衛がドラマで取り上げられた時のように、伊丹への来訪者が増えるかもしれません。

織田信長が村重を摂津守にした狙い

伊丹市の北村に摂津の国の中心であることを示す「辻の碑」が建っています。ここは山陽道（西国街道と多田道）が交差する所で、「摂津の国のへそ」と言われています。この交通の要所である伊丹に、村重が伊丹氏を追放し入城した理由も、伊丹が信長の西国攻めにおける要所であったからです。その要所を任せたということは、信頼の証であったということでしょう。



提供：伊丹市立博物館

信長と村重の初対面の時の逸話が、江戸時代の浮世絵に描かれています。髭面の村重が、信長が突き出した刀の先の饅頭を食らおうとしている絵です。村重の豪胆さを表現したものとして有名ですが、村重の人となりには惚れた信長は、京より西に領地を拡げる権利を与えました。

発掘によって実証されたこと

有岡城跡・伊丹郷町遺跡の発掘調査は、393次に及びます。館長等が発掘調査から知り得た有岡城（伊丹城期も含む）の城造り、惣構の姿を説明されました。



伊丹台地の地の利を活かした惣構は、高低差のある台地の東縁に築城し、城内に侍町・町人町を持っています。北・西・南の守りは砦を築き、西・南は4世紀後半の古墳を利用しています。高低差の少ない西側は、堀と土塁で囲まれていたと言われていましたが、比較的高低差のあった場所では、必ずしもそうではなかったようです。

ニトリ建設に先立ち行われた発掘調査（平

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。市内の史跡・文化財のガイドのお問い合わせは、伊丹市教育委員会事務局内 博物館（文化財担当）までお願いします。（☎：072-784-8090）

成 15 年) で、信長公記に記載された内容を実証する事実が確認されました。絵図に大溝と記された幅 6m・深さ 4m の堀跡が見つかり、火事の跡が侍町側だけに見つかりました。この発見は、信長公記に記載された「城と町との間に侍町あり。これをば火にかけはだか城になされたり」を実証するものでした。

現在は史跡公園（JR 伊丹駅前）として整備されていますが、館長によると、昭和 51 年の城内北西隅の発掘調査中の写真を見ると、現在の発掘方法と手順が異なるようで、上部が未着手であることがわかっています。この部分に新しい発見があるかもしれないそうです。



館長より中味の濃い内容を聞くことができ、ブラッシュアップする機会を得ることができました。（藤原 記）

文化財市民ガイド 歴史ウォーキング 西国街道 史跡・道標巡り ～西から東へ

前回、雨のため延期となっていたのが、5 月 18 日に改めて催されました。

最年少ではないでしょうか、小学 4 年生の少年を含め若い親子もおられ、36 名の参加となりました。

◆師直塚

少し前の歴史の教科書で足利尊氏として載っていた人物の肖像画は、人物の役職名、馬具に付けられた家紋などから、別人とみなされ、今日では高師直であろうとする説が有力になっています。



◆寺本一丁目道標

いつもは東から西へ歩きますが、今回は西から東へ歩きました。どの道標も道が整備されるたびに場所が変わったり、アスファルトに半分埋も

れたりしています。こうしてガイドしてもらわないとうっかり見落としてしまいそうにひっそり佇んでいます。

昆陽寺の前身は行基によって建てられた布施屋ですが、場所や規模を特定出来る証拠は見つかっていません。

◆西の庚申祭所

60 日ごとに巡ってくる五行十干(ごぎょうじゅっかん)に基づく庚申(こうしん=かのえさる)の日は、2019 年(令和元年)は 7 月 22 日、9 月 20 日、11 月 19 日です。体内に住んでいるとされる虫は様々いて、上戸(じょうし)、中戸(ちゅうし)、下戸(げし)の 3 匹の虫という神の使いは庚申の夜にその人の 60 日間の行いを書き留めた巻物を天帝に告げに行くため体から抜け出すとされています。



体内に住んでいるとされる「三戸の虫」

それを防ごうと酒や音楽で接待してもてなす為に夜通し宴会をします。2 ヶ月に 1 度三戸の

虫をもてなすという口実で夜通し飲めや歌えの宴会をしたのですね。

◆長勢橋の碑

蛤御門の変(1846)の際に敗走した長州藩勢が、ここに踏みとどまり戦ったといわれています。各所に橋と名のつく旧跡がありますが、現在では川は塞がれ暗渠しか見られません。

◆有馬道、大阪道

道標に「南すぐ尼崎」とか、「西すぐ有馬」とか刻まれています。この「すぐ」というのは、まっすぐという意味だそうです。

◆大覚山妙宣寺

大覚大僧正が説法教化で西国を巡り歩いている途中、大干ばつで苦しむ大鹿村の村民たちに請われて雨乞いの祈祷をしたところ、その

願いが叶い降雨に恵まれました。人々はたいへん喜んで、それまでの真言宗から法華宗に改宗したそうです。また、ついていた杖を地面に差しした所から信心の証として紫竹が生えてきたという逸話も伝わっています。



(中村 記)

※次回の市民ガイドは9月28日(土)に予定しています。

【町の小さな文化財 第19回】 南野平塚古墳

現在の安堂寺町6丁目は旧地名で南野平塚と呼ばれていた。ここに方形墳とされる塚のあることが伊丹市史に掲載されている。



伊丹市史第四巻の掲載写真

おそらく昭和30年代の写真?。周囲は一面の耕作地で、遠くに六甲の山並みが見える。同市史によると「・・・一見方形墳の形をしめし塚地は一辺16m、比高3m・・・、いま塚地上には小祠がたち、その東側斜面の土が大きくくずれており・・・旧状をそのままとどめるとは見られない。これを古墳と確認する徴証はないが、古墳としてのさらには方形墳としての、疑いの存するものとして・・・」とある。(伊丹市史より抜萃)

市史掲載の写真より半世紀以上過ぎた現在、塚はどうなっているのだろうか。

現在の平塚は住宅街の1区画として残されており、周囲の耕作地は宅地造成のために埋め立てられて地盤が高くなり、塚との高低差は1.5mほどになっている。



現在の平塚

以前と同様に塚の上には地蔵が祀られ、南野自治会所有地南野地蔵講管理と表示されている。

しかし平塚古墳を示す説明等の表示は見当たらない。御願塚古墳の4ヶ所の陪塚は現在消滅しており、痕跡さえ残っていないが現地には塚跡の標示がされている。これに比べると平塚は存在が忘れられたような不遇な塚である。

(松田 記)

奈良国立博物館は伊丹から J R と近鉄を乗り継いで近鉄奈良駅まで約 1 時間 20 分、駅からは登大路を東へ徒歩約 15 分の距離で、もとは興福寺の境内だった奈良公園の一角にある。

1895 年（明治 28）4 月 29 日、日本で 2 番目の国立博物館として開館。その 6 年後の 1901 年（明治 34）4 月 29 日に昭和天皇が誕生され、昭和の時代は「天皇誕生日」が「開館記念日」となっていた。



4 つの展示館（「なら仏像館」「青銅器館」「西新館」「東新館」）がある。1894 年竣工の旧本館は「なら仏像館」、1937 年完成の鉄筋コンクリート 2 階建の収蔵庫は中国古代青銅器を展示する「青銅器館」として利用されている。秋の風物詩・正倉院展が開催される「西新館」（1973 年：昭和 48 開館）と「東新館」（1998 年：平成 10 開館）は、展示スペースが手狭になったため、増設されたものである。

建物自体が重要文化財に指定されている旧本館は、「なら仏像館」として再出発したのは 2010 年（平成 22）のこと。飛鳥時代から鎌倉時代の仏像を中心に、国宝・重要文化財を含む 100 体程度が、如来・菩薩・明王・天部などに分類され、13 の展示室に展示されている。また、新館と仏像館を結ぶ地下回廊には、仏像の印相や木彫仏の製作方法などの展示コーナーがあり、仏像について学べるよう工夫されている。

2018 年 11 月に奈良国立博物館に立ち寄る機会があった。平成最後の正倉院展を見たかったのだが、待ち時間が長く断念。仏像館のみの観覧券（520 円）で入館した。薬師如来坐像（9 世紀・国宝・カヤ一木造）や菩薩立像（7 世紀・重要文化財・クスノキ一木造）など見逃せない仏像が多数並ぶ中でひととき目立つのが、快慶作の阿弥陀如来立像（1201 年・像高 266.5cm・重要文化財・兵庫県小野市の浄土寺から寄託）である。

2019 年 4 月には「藤田美術館展」を見に行く。国宝の曜変天目茶碗に人気が集中する中、快慶作の地藏菩薩立像（13 世紀・像高 58.2cm・重要文化財）をゆっくりと鑑賞した後、仏像館で阿弥陀如来立像と再会した。

博物館敷地の東北隅にある「鷗外の門」。殆どの人が素通りしてしまふのだが、森鷗外ゆかりの建造物である。鷗外は 1917



年（大正 6）から 1922 年（大正 11）に亡くなるまで、帝室博物館の総長（現在の東京・奈良・京都 3 国立博物館を統括する要職）を務めた。当時帝室博物館の管轄下にあった正倉院は宝物曝涼のため、毎年 11 月に開封された。鷗外はその儀式に立ち会うべく奈良を 5 回訪れ、この場所にあった官舎に各 20 日間ほど滞在した。宿舎の建物はすでになく、残された「門」と奈良滞在中に詠んだ「奈良五十首」が、当時の鷗外をしのばせてくれる。

「猿の来し官舎の裏の大杉は折れて迹なし常なき世なり」（奈良官舎にて）

「夢の国燃ゆべきものの燃えぬ国木の校倉のとはに立つ国」（正倉院にて）

（森鷗外「奈良五十首」より）

阪急・阪神沿線観光あるき③

伊丹緑道・多田街道を散策

雲一つない好天の4月20日(土)平成最後になる阪急・阪神観光あるきに参加しました。参加者は21名(男性7名、女性14名)1班体制でリータを出発。今回のコースは阪急伊丹駅～猪名野神社～伊丹緑道～白洲屋敷跡～多田街道～辻の碑～緑ヶ丘公園～鴻臚館～伊丹緑道～みやのまえ文化の郷です。

猪名野神社から伊丹緑道へ向かい、新緑の元で白洲屋敷跡の説明の後、産業道路を渡り多田街道沿いの水車



小屋へ向かいました。水車小屋は「北村の景観を創る会」の北村会長に説明してもらう予定でしたが生憎所用があり、水車だけ回してもらいました。

この水車は大正年間まで酒米の精米に使っていたものを復元したミニチュアで、今はモーターで回しているとのこと。

その後辻の碑のガイドの後、新緑の緑ヶ丘公園の中にある中国佛山市より寄贈された亭(賞月亭)を眺めながら鴻臚館へ。鴻臚館では伊丹市茶道協会から茶器や掛け軸の説明を受けながら、おいしいお菓子とお茶を頂き、くつろいだ時間を過ごしました。

鴻臚館より再び伊丹緑道を経由してみやのまえ文化の郷へ向かいましたが、好天で空気も乾燥しており快適な散策でした。また、参加者が比較的少なかったのでコミュニケーションをとりながらガイドすることができました。

最後に旧岡田家住宅でビデオ鑑賞とガイドの後解散しましたが、ガイド付きの



観光歩きも今回で最後という話であり残念なことです。

1班21名でガイドすることになったのですが、まちなかにぎわい課の皆様の適切な案内・誘導により、スムーズに実施することができました。

(内橋 記)

京・アラカルト ⑫ 六道の辻・冥土への辻

池田利男

東山の六道珍皇寺(ろくどうちんのうじ)に、冥界に通じると言う井戸があります。歌人としても知られた平安時代前期の公卿・小野篁(おののたかむら)は昼間朝廷で勤務した後、夜になるとこの井戸から冥界に降り、閻魔大王の裁判の手伝いをしていたそうです。篁は遣隋使・小野妹子の子孫です。小野一族は外交官であり、篁は参議にまで昇った人物です。

六道珍皇寺の境内の庭の奥へ進むと、「冥土通いの井戸」があります。井戸の傍に高野槇が生えていて、その枝を伝って井戸へ降りていった。その奥には、もう一つ「黄泉(よみ)帰りの井戸」があり、篁の冥界からの帰り道だったそうです。

珍皇寺の門前には「幽霊飴」と言う名物があり、幽霊が乳の代わりに飴屋の飴で赤ん坊を育てたのだと、評判だったそうです。



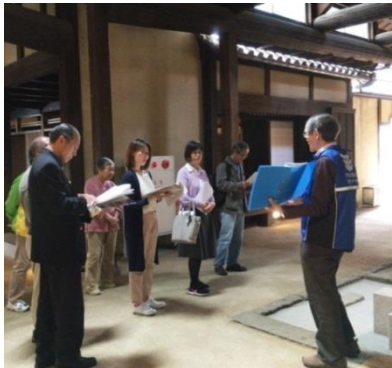
六道珍皇寺

今年は新しく 5 名の方が入会されました。養成講座では伊丹の文化財の概要を学びましたが、入会後はガイドをするために学習することがたくさんあります。

今回、木曜班の末次リーダーが新人研修のためのプログラムを作り、入会から 3 か月にわたってガイドのための勉強会が開催されました。

初日の 4 月 18 日は旧岡田家住宅に集合し、岡田家の歴史、伊丹の酒造りや酒蔵について学びました。翌週の 4 月 25 日は有岡城跡の惣構えをぐるりと歩き、砦跡を巡りました。5 月に入って、16 日は A コースの中心になる有岡城跡、猪名野神社や周辺の寺院を散策し、30 日は有岡城跡を重点的に学びます。

6 月には早速ガイドデビューで、小学 3 年生 148 名のガイド（下記、関連記事）です。



6 月 20 日には伊丹市立博物館に集合し、口酒井遺跡、御願塚古墳、伊丹廃寺などの展示物を見ながら、主に縄文・弥生から奈良時代の歴史を勉強しました。7 月 9 日には、9 月に行う木曜班主催の市民ガイドの下見を兼ねて神津地区を歩き、最終の 7 月 18 日には中央公民館に集合して、発掘調査報告書の見方を学びました。

8 回にわたって行われた研修には新人だけでなく、現会員数人も参加して進行了しました。



今後は新人だけでなく、すべての会員が参加してガイド知識を学べる研修会が必要との声が聞かれました。

◆ガイドレポート お姫さまはどうなったの？

6 月 6 日（木）、小学 3 年生 148 名に教師 7 名が引率するという、いつもと違うガイドの依頼がありました。笹原小学校の授業の一環で、子供たちに有岡城跡の話を聞かせてほしいというものです。



時間が 20 分程度で、しかも小学 3 年生が見学者であることを考慮して、細かな説明よりも「体験学習の場」として実行することとなりました。

石垣の前でリーダーが 5 分程度お城のことや荒木村重、織田信長のことを説明した後、8 グループに分かれて、子供たちに両手を広げて石垣の規模の計測をさせたり、お堀の大きさを歩測させたり…。子どもたちは校庭で遊んでいるようにはしゃいでいました。

その中で、「お城にはお姫さまがいたの？」と、質問した女の子がいました。「お殿様もお姫様もいたよ」と答えると、城が織田信長に占領されたとの説明を聞いていたようで、「お姫様はどうなったの？」と尋ねるのです。お殿様がひとりで逃げ出したのでお姫様は殺されたとも言えず、お城から追い出されてしまったと答えました。

さて、あなたは荒木村重のことを、子供たちにどう伝えるでしょう？（金川 記）

曲水の水の みなかみや 鴻農池 西鶴
挽置なれど 霞たつ山 西六

伊丹の酒造家たちはその財力で江戸時代の上方文化を支え、鬼貫に代表されるように、自らもその一角を形成しました。鴻池の四代目山中新右衛門元武は、西六という号を持つほど、俳諧とお茶に熱心な酒造家でした。

延宝七年(1679)3月6日から8日かけ、西六は鴻池の屋敷に西鶴、西花、西友、西吟といった俳諧師を招いて俳諧の会を催しました。その時の作品が、「西鶴五百韻」として残っています(国立国会図書館蔵)。その発句と脇句が冒頭の作品で、西鶴の句は、曲水の宴にかかせない水の源は鴻池 井原西鶴像(生國魂神社)でしたという句意に、曲水の宴にもう一つか



かせない盃の酒の起こりは鴻池家さんでしたという意をかけています。西六の脇句は挽き置きの茶ですが湯けむりがたつて霞のようで、その春霞は周囲の山々にかかっていますというほどの意味です。

西六は、翌年の「西鶴大矢数」に際し、「鬼神も下馬 鶴の羽音ぞ 大矢数」の句を送り、祝意を表すなど、西鶴と交流が深かったようです。

また、山中家では「相生」という酒を造っていました。鴻池村の向林(むかいばやし)(天王寺川の左岸)には酒蔵があり(「伊丹鴻池の歴史」)、清酒の江戸積に天王寺川が利用されたのではないかと考えています(天王寺川→武庫川→海)。駄送りだけで財を成したというのが以前からの疑問でした。今のところ確証はありませんが、もう少し調べてみたいと思っています。



こぼれ話(奈良)

鹿に申し渡す

中山千恵子

近鉄奈良駅の東向商店街から興福寺へ向かう手前の左側に、「奈良縣里程元標」の大きな柱が建っています。

これはかつて明治時代に、日本国内のさまざまな距離を測る上での起点とし、各府県に設けられたものを復元したものです。定めや御触書などの住民に知らしめる9枚の高札が掲げてあります。その一枚の、奈良にとっては大事な獣民である鹿への御触書が面白い。



定 奈良公園をすみかとせし鹿に申し渡す

- 一 人の捨てし如何様のごみをも思慮なく食す事ならじ 特にビニール袋は未消化にて死に致らしむ仲間多かりし
- 一 車の増えし昨今鹿身事故跡を絶たず 道路横断の時は左右確認を怠るべからず
- 一 其の方共弱き生き物なり 犬の牙には特に注意し その姿見れば懸命に逃げるべし
- 一 人とは仲良く ゆめその角その足を振り上げ傷つけし事 無かりしよ 注意すべし
- 一 常に大和国の顔として其の身を自覚し 人に愛される鹿たるべく日々研讃すべし

お薦めの本

「名将山中鹿之助」

南原幹雄

物語は、毛利に滅ぼされた尼子家再興のため、山中鹿之助が京都の東福寺で僧をしていた尼子勝久(尼子家の遺児)を訪ねるところから始まります。

還俗させた勝久を担ぎ出し、尼子家再興ため、鹿之助は毛利軍との戦いを重ねます。毛利軍を苦しめるものの、大軍を前に戦いは過酷を極めます。そして、西国への覇権争いをもくろむ織田信長に近づき、側近の羽柴秀吉から支援を取り付けることに成功するのですが…。

最終章の「諸白」では、長男の幸元が鴻池で酒造業に成功した話を通じて、戦国武将山中鹿之助の意地と誇りが後世に受け継がれていることが描かれています。

(金川 記)



活動記録 (5月～7月)

【定例会】・5/14 (火)・6/11 (火) ・7/9 (火)

【案内ガイド】・5/10 (金) 有岡城・郷町館 (緑寿会 枚方市)・5/18 (土) 市民ガイド・5/19 (日) 郷町館 (玉親会 姫路市)・5/22 (水) A コース (エムエスデー会 大阪市)・5/26 (日) A コース (大阪中高年ハイキングクラブ 伊丹市)・6/6 (木) 有岡城跡 (笹原小学校 伊丹市)・6/8 (土) A コース (大阪府立大同窓会 堺市)・6/15 (土) A コース (高大健康スポ 尼崎市)・6/27 (木) A コース (信木会 神戸市)・7/13 (土) 岡田家 (万歳会 大阪市)・7/17 (水) C コース (兵庫県退職公務員連盟 伊丹市)

【歴史ロマン体験学習支援】・5/11 (土) 手ぬぐいを作ろう ・6/8 (土) 鋳造技術を学ぼう
・7/20 (土) ポンポン船をつくろう

【どんぐり座公演】・6月11日 定例会で公演

今後の予定 (8月～10月)

【定例会】・8/20 (火) ・9/10 (火) ・10/8 (火)

【案内ガイド】・8/9 (金) B コース (緑寿会 西宮市) 9/28 (土) 市民ガイド・10/5 (土) B コース (新在家歩こう会 摂津市)

【歴史ロマン体験学習支援】・8/24 (土) わらじをつくろう ・9/7 (土) ブレスレットに挑戦

文化財のガイドをしてみませんか



伊丹市内には有岡城跡や毘陽寺など、多くの文化財が残されています。文化財ボランティアの会は伊丹市を訪れた方々に、郷土の歴史や文化の魅力を伝えるために活動しています。また、伊丹の民話を紙芝居で紹介するどんぐり座、歴史会、古文書会やパソコンを学ぶ分科会など、様々な分野で楽しみながら知識を広げています。

ぜひ、私たちの仲間になって、活躍の場を見つけてください。

会員になるためには、毎年1月～3月に開催される全8回の養成講座を受講していただく必要があります。養成講座についてのお問い合わせは博物館(文化財担当 ☎:072-784-8090)までご連絡ください。